

教団新報

定価 1部220円(本体200円+共283円)
 予約購読料 1年分 千共 3,962円
 紙代のみ 3,080円
 振替 00140-9-145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
 FAX03(3207)3918
 URL http://uccj.org
 発行人 網中彰子
 編集主筆 嶋田恵悟
 印刷所 株式会社きかんし

I Love Taiwan Mission

▶ 2024年7月4日~19日 ◀

「目標を目指してひたすら走る」

5名の青年をボランティアとして派遣

7月4~19日、台湾から5名の青年を派遣した。日本以外に、カナダ、アメリカ、韓国、ニュージーランドとインドの教会から合わせて23名、PCT受入青年が37名、計60名が集った。今年のテーマは「目標を目指してひたすら走る」(フィリピ3・13)。初めの3日間は新北市崇光高校にて、オリエンテーションを行い、その後、10日間、青年たちはボランティアとして台湾各地の教会へ派遣された。派遣後、新竹聖書学院に集まり3日間の報告

西嶋莉里《神戸御影教会》

私は排湾中会の佳義教会に台湾とニュージーランドの青年と一緒に派遣されました。私は中国語ができません、英語、ジェスチャーや翻訳機を使ってコミュニケーションをとっていました。サマーキャンプでは子どもたちとダンス、ゲームなどを通して聖書の話を含めました。キャンプ期間中は毎日、ILTタイムという時間が設けられ、私は折り紙やけん玉を紹介しました。今回のILTで韓国参加者と出会い、本当に大切な友人になりました。お別れの前日には夜遅くまで一緒に過ごし、日本語で「ともだち」と伝えてくれて、とても感謝しました。

来島真衣《東調布教会》

私の派遣された士林教会は若者男女が集うパワフルで、誰でも優しく受け入れてくれる素敵な教会でした。サマーキャンプでは、支援が必要な子どもがいり、言葉の壁があったりして、はじめは戸惑いました。しかし、諦めずにチームで協力したり、翻訳機を使ったり、何より笑顔とジェスチャーでコミュニケーションをとると、少しずつ信頼関係を築くことができました。キャンプ終了後に、教会青年たちと担当した子どもの成長を分かち合う時間や、自身の能登半島のボランティア経験や、台湾花蓮地震の状況を共有する時間がとても有意義でした。帰国後すぐ、ホストファミリーと荻窪の東京台湾教会で再会することができ、台湾と日本の近さを実感しました。

榎本光太《甲西教会》

私が派遣されたのは、台中にある復興教会で、私を含め日本、韓国、インドからの4名の参加者を迎えてくださいました。そこで10日間滞在し、3日間のサマーキャンプの奉仕をしました。サマーキャンプの参加者はクリスチャンでない子どもがほとんどでした。ある保護者に「この教会には子どもが安心して集える場所があり、台湾語も教えてくれるから信頼していい、友達も誘って来てほしい」と教えてくださいました。ここは普段からクリスチャンではない親子との関わりがあり、地域に開かれた教会でした。また、教会が台湾のアイデンティティを語り継いでいることに興味深さと主の偉大な業を感じました。



排湾中会長楽教会にて

ILTに参加する前、私は台湾の歴史的背景や文化、日本で生活する人々とう違うのか、何もしりませんでした。しかし、ILTの存在を知り、参加を決めたから台湾を知っていく中で、関心を持つようになり、なぜ今まで何も知らなかったのだろうと不思議に感じるほどになりました。今回の滞在中、台湾のあらゆることから歴史

李耕守《上賀茂教会》

ILTに参加する前、私は台湾の歴史的背景や文化、日本で生活する人々とう違うのか、何もしりませんでした。しかし、ILTの存在を知り、参加を決めたから台湾を知っていく中で、関心を持つようになり、なぜ今まで何も知らなかったのだろうと不思議に感じるほどになりました。今回の滞在中、台湾のあらゆることから歴史



閉会礼拝にて祝福を受ける日本からの参加者

会を行った。教団から派遣した5名の青年は、台北中会の士林教会に1名、台中中会の復興教会へ2名、排湾中会のKangshian(佳義)教会に1名、CUIANKU(長楽)教会とDIBAKI(杜林)教会へ1名が派遣された。今回も出発前にオンラインでオリエンテーションを行い、台湾と日本の歴史、両教会の成り立ちや文化について参加者で分担して調べ発表し、また在日大韓基督教会(KCCJ)からの参加者も与えられたため、KCCJについても学んだ。他、出発前まで参加者同士で連絡を頻繁に取

り合い、日本や教団の紹介、派遣教会でのサマーキャンプの準備をした。帰国後はオンラインで報告会を行い、台湾での出会いと学びを分かち合う時がもたれた。以下、参加者の報告書の抜粋を紹介する。(廣中佳実報)

感動しました。それは、台湾人が日本を好きだからとか台湾がおもてなしの国だからではなく、彼らが主から愛されているからだと思えます。私にできたのはそれをただ受け取るだけでした。まさに主からの無限の愛を受けているように。彼らには感謝の言葉しかありません。彼らと同じようにその愛を隣人と分かち合うことができるようにと祈ります。

環境や治安が悪化したとの主張が声高になされるのを耳にするが増えた。中には、全ての原因を移民に帰するような過激なものも少なくない。日本においても移民を危惧する論調が強まっている。▼この状況に直面して思い起こすのは、外から体に入るもので人を汚すものではなく、「人の中から出て来るものが人を汚す」と語る主イエスの言葉だ。「昔の人の言い伝えを守り、腹の中に入る食べ物に注意を払っていた人々に、心の中から出て来る「悪い思い」こそ問題であることを指摘する。▼この「外から」ではなく「内から」という見方の転換は、集団における人々の態度にも当てはめることができるだろう。自分たちが属する集団が受け継いでいる文化や伝統の優れていることを主張しようとする時、身の回りで生じる悪の原因を外にのみ見る姿勢が生まれ、内にある問題が見えなくなりがちだからだ。▼移民政策についての立場は様々で、真摯に議論をして行くことが課題だ。それと共に、福音に聞き、見方を転換し、絶えず自らの内を省みると共に、その転換を伝えて行く課題があることを思う。



欧米で移民が政治における大きな争点となる中、雇用環境や治安

▼教師継続教育研修会・教師委員会▲

現場から離れ、霊的な養いと励ましを受ける

教師継続教育研修会

2024年度の教師継続教育研修会が7月30日～8月1日、関西セミナーハウスを会場にして行われた。参加は16名。主題は「説教と牧会」で、講師は越川弘英氏（同志社大学名誉教授）と小泉健氏（東京神学大学教授）。

教するもので、「一書説教」はイザヤ書やパウロ書簡など一書まるごと概説的に講解説教することである。いずれも会衆のキリスト教信仰と聖書全体に対する理解を深めるのが狙いである。

小泉氏は「説教と牧会」はどちらも神の言葉に仕える働きである」と述べ、それぞれについて多角的に解説した。説教について、バルトを引用しつつ「神の言葉は『説教』『聖書』『イエス・キリスト』の三つのかたちがあるが、『説教』『聖書』『イエス・キリスト』という順番が重要である」と述べた。なぜなら「説教」は会衆に最も距離が近く、「説教を通して」「聖書」を理解し、「聖書」を理解することで「イエス・

キリスト」を知ることにつながるからだという。牧会には「悩みの中にある」個人に対して神の言葉を伝達することだ（トゥルナイゼン）と語り、牧者は「断絶」を超えて神の領域に対象者を同伴することが求められている、と述べた。

分団は二つの講演に関する感想だけでなく、参加者の献身に至るまでの証しや牧会現場における様々な悩みなどを語り合う豊かな時間となった。

牧会講話は森里信生氏（隠退教師）が牧会における恵みと苦労について語った。

教師委員会

第7回教師委員会が、7月30～31日、関西セミナーハウスで開催された。教師継続教育研修会の1日目と2日目に行われた。古旗誠委員長による開会祈禱の後、前回議事録の承認、委員長及び事務局の報告が行われた。

本研修会は「教師の継続教育」という教团的機能を担う一方で、教師たちが現場から離れ、霊的な養いと励ましを受ける意味も大きい。次年度もさらに多くの参加者が得られるよう努力したい。（兼清啓司報）

続いて、6月24～26日にハートピア熱海を会場にして行われた新任教師オリエンテーションの反省がなされた。何より、去年より参加者が1名増えたことは大きな感謝であった。教团的機能説明の部分は、対面で行う部局と録音で説明する部局をもう一度検討することにした。参加者のアンケートでは「牧会についての実践的な学びを得た」、「豊かな時間を分かった」、「牧会的な悩みを分かち合うことができた」、

「もっと分団の時間を増やして参加者の意見共有を深めた方がよい」、「神学校の垣根を越えて同期が増えたことは喜び」といった声が聞かれた。なお次年度については同じ時期、同じ場所で予定している。

最後に、継続審議となつている戒規適用申請について協議した。専門家の意見を聞きつつ議論を進めたが、さらに審議する必要があると継続とした。（尚、8月5日第8回委員会で戒規適用を決定した。）（兼清啓司報）



関西セミナーハウスにて

能登半島地震報告《ボランティアから》

心が癒されるための継続的支援を

8月5～8日、教団が実施するボランティア（第一次日程）に参加しました。

今回の作業内容は、牧師館の整理と信徒宅での貴重品の探索でした。ここに書くことは限界があります。この報告で端的にお知らせしたいことは「できれば行って、見て、力になってください」ということです。今後、この支援活動が継続し、意義あるものとなってい

くことを願って報告します。

現地の状況をきつくり言うと、大きな傷痕を残しつつも、生活に必要な物は整えられてきているという印象でした。地面は亀裂が入り、車で走ると凹凸です。全て補修したのであろう新しい道路、半分になってしまったのを補修した道路、階段のような隆起を埋めた道路を走るだけで、ここまで整えるのにどれだけの

の苦労があったらだろうと思えます。

輪島の街は、崩れた家や建物が多く残っています。電柱や信号機はどれも傾いていますし、朝市は文字通り焼野原です。作業のため、ある家に入らせて頂きました。家の中は足の踏み場もなく、一歩進むごとに、茶碗やら、木片やらが靴の下で割れました。それでも、飲食店やコンビニは開店しており、品物も

整っていたと思います。そういう意味で、生活面での必要は回復してきているように感じました。

しかし、それだけでは、癒やされないものがあります。毎日、あの倒壊した建物と焼野原を目にする辛さを思えば、胸が潰れるようです。限界状況の中で暮らしている人々の心が癒やされるために、慎重で継続的な援助が必要だと思えました。輪島教会の庭にプラン



焼野原のただ中に



羽咋教会、輪島教会牧師と共に、右側が筆者

ターで花を持って行きました。焼野原のただ中に誰もが植えたのか、赤いバラが花開いていました。そんな活動がわずかに

ずつでも、癒やされるのに役立てばよいと願っています。

行かなければ感じることのできないものがある。祈りに覚えたいことがいくつも与えられました。この支援活動が継続され、参加する人々の手を

を主が強めてくださり、現地の人々の励みとなるように祈っております。（森本玄洋報）

常議員会

第42総会期第12回臨時

「教師論」について協議会を開催

第12回（臨時）常議員会が8月30日、常議員27名が出席して行われ2つの議案を審議した。第43回教団総会推薦議員の内1名、宣教協力学校協議会からの議員が教団の信徒ではなかったことを受けて、ディビッド・リーディ宣教師（青山学院大学）に変更することを受諾した。また、「第42回教団総会議事録」を議事録精査委員会の報告を受けた上で承認した。

常議員会の後、陪席者が加わり、7月の第11回常議員会に教師養成制度検討委員会から提出された「教規から導き出される日本基督教団の教師論」について、理解を深めるための協議会が行われた。冒頭、菅原力委員長が、提出に至る背景に

ついて説明した。第37総会期（2011年）から2総会期にわたって「教師養成制度検討会議」が審議して答申書をまとめ、第39総会期に設置された「教師養成制度検討委員会」が、神学校を訪問しつつ検討を重ねる中で「教団の教師論」を明確にすることを重要性を受け止めるに至り、取り組んで来たことを振り返った。

雲然俊美議長は、10月の常議員会で内容を協議し、「これを確定し、公にする」ことを語り、取り扱いは第43総会期の常議員会に申し送るとの見通しを述べた。この件について、「常議員会で承認すれば公になるのか、総会で決議する必要があるのか」との問いが出された。（新報編集部報）

各教区それぞれに、夏の行事を開催

東海教区／青年修養会、九州教区／平和セミナー



御殿場東山荘で

東海教区は年一度、中高生・青年修養会を開催しています。7月の海の日を基準に前日の日曜夕方から月曜日まで行ない、今年度は7月14～15日、御殿場東山荘で「罪ゆるされて生きる」の主題のもと、青年6、中高生0、委員他17、当日病欠2で全参加者23でした。少ないようですが毎年の参加者の他、新しい参加者もあり、活発な会となりました。

例年は講師を教区外から立てていましたが、今回は担当委員が二度の講演、開会閉会礼拝、早朝祈禱、讃美伴奏など、総ての役割を担いました。このような集まりでは参加者が来て良かったと思えるような全体の流れや雰囲気特に重要です。

★東海教区中高生・青年修養会2024

「罪ゆるされて生きる」を主題に

東海教区は年一度、中高生・青年修養会を開催しています。7月の海の日を基準に前日の日曜夕方から月曜日まで行ない、今年度は7月14～15日、御殿場東山荘で「罪ゆるされて生きる」の主題のもと、青年6、中高生0、委員他17、当日病欠2で全参加者23でした。少ないようですが毎年の参加者の他、新しい参加者もあり、活発な会となりました。

★九州教区第41回反核・平和セミナー

「生きながらの死」、ガザの現実を学ぶ

8月8～9日、長崎県屋敷教会で九州教区第41回反核・平和セミナーが開催された。ここでは岡真理さん（京都大学名誉教授、早稲田大学大学院教授）による講演「ガザとは何か、21世紀のホロコーストと私たち」について、レポートします。



オンラインで講演

進行中です」と、岡さんは熱く語り始めました。一刻も早い軍事行動が必要。57年にわたる軍事占領と17年に及ぶ封鎖により、ガザの人たちは「生きながらの死」を強いられてきた。食糧や医薬品が不足し、電気や水が大幅に制限され、下水処理ができないため地下水が汚染し、感染症が蔓延している。イスラエルは、病院や住宅だけでなく、12の大学すべてを破壊し、4000年の歴史を紡いできた史跡や記憶の痕跡を粉砕し、パレスチナとその社会を殲滅しようとしている。

その後もパレスチナでは、イスラム教徒だけでなくユダヤ教徒もキリスト教徒も共存して暮らしてきた長い歴史がある。ところが、ナチスによるホロコーストを生きた25万人のユダヤ人の行き場がなくなった。諸国は、ユダヤ人国家建設を願うシオニズム運動に便乗して、イスラエル建国を後押しした。これは、その地に生きるパレスチナの人々の存在を無視する暴挙であった。1948年のイスラエル

メールで各教会でのプリントをお願いすることを始めましたが、こちらも諸教会の協力を仰ぎながら継続します。講師も次年度から今年同様委員が講演などを行なうかたちを続けたい。講師謝礼の関係だけでなく、同じ教区にある教師が、自らの教区の青年に向き合い、準備していくのが最適との確信により、継続されますように。

（川崎一路報）

事務局報

藤井 實（隠退教師）



20年2月7日逝去、99歳。北海道生まれ。82年受允、85年受按、82年より小樽教会、俱知安伝道所、手宮教会牧会し、99年隠退。遺族は姪・高頭セイさん。

木村 徹（無任所教師）



23年10月8日逝去、82歳。東京都生まれ。69年東京神学大学院修了、72年より73年まで本郷教会を牧会。遺族は妻・木村章子さん。

青木敬和（隠退教師）

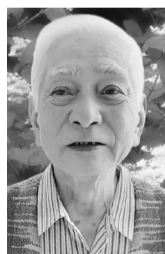


24年7月1日逝去、93歳。高知県生まれ。55年同志社大学大学院修了、同年より洛陽、鹿島教会牧会し、04年隠退。遺族は息・青木和人さん。

仲澤一彦（隠退教師）



24年7月5日逝去、84歳。兵庫県生まれ。65年関西学院大学大学院修了、同年より古川東伝道所、大阪城北、姫路福音教会、明舞伝道所を牧会し、07年隠退。遺族は妻・仲澤道子さん。



24年7月30日逝去、80歳。京都府生まれ。68年同志社大学大学院修了、同年より袖ヶ浦ともしび伝道所、大津教会、小倉伝道所（85年より西小倉めぐみ教会）、西小倉めぐみ教会を牧会し、09年隠退。遺族は娘・古谷友起さん。

教師異動

新島学園短大

江別 辞(主) 榮 忍

浦田 辞(主) 小林克哉

水沢 辞(主) 藤崎義宣

鳥取 辞(主) 山下 光

西伯法勝寺 辞(主) 伊藤義経

辞(代) 野々川藍

就兼主 廣田崇示

福岡女学院 辞(教) 阿久戸光晴

教師隠退

横山順一

教会合併

榛原、相良(榛原存続)

教師検定試験公告

2025年春季教師検定試験を左記の要領で行います。

- 一、受験要綱の申し込み
受験要綱と教団指定の願書用紙は165円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師(A、B、Cコースの別も)受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。
- 二、受験願書の提出
受験願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。
- ①教区締切 2024年11月18日(月)
(教区により締切が異なる場合がありますので、教区事務所に確認してください)
- ②教団締切 2024年12月18日(水)
(各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です)

- *受験料は正教師1万3千円、補教師1万円
- 三、補教師について
- ①「説教」(新義)の課題テキスト
旧約 創世記22章1～14節
新約 ヨハネによる福音書1章29～34節
- ②コースによって「説教」「新義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱をご確認ください。
- ③補教師(Cコース)の牧会学の課題
「牧会とは何か」について論述してください。
- ④Aコースについては、教師検定規則第4条第3号にもとづく試験が実施されます。

- 同対象者は、神学校を通して説明をうけ、それにもとづく手続をおこなってください。
- 四、正教師について
受験志願者は、直接教師検定委員会までお問い合わせください。
- 五、提出物(説教、新義、牧会学等)締切について
当委員会への提出締切日は、2024年12月20日(金)午前中必着です。
- 六、学科試験と面接試験について
学科試験は2025年2月25日(火)、面接試験は2月26日(水)、27日(木)に日本キリスト教会館において実施します。

不明な点は直接、当委員会へお問い合わせください。
2024年9月28日
〒169-0051 日本基督教団教師検定委員会
東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
電話 03-33202-0546

2024年 8月1日

2024 平和メッセージ 幸いなるかな。平和を実現するものたちは。

日本基督教団社会委員会委員長 柳谷知之

現在、日本政府は防衛費倍増、敵地攻撃能力保有という「軍拡」の道を推し進めています。2022年12月、岸田政権は安保関連3文書（「国家安全保障戦略」、「国家防衛戦略」、「防衛力整備計画」）の改訂を閣議決定し、2023年6月には「防衛力強化2法」（「防衛財源確保法」、「防衛生産基盤強化法」）を成立させました。加えて、今年の3月26日、次期戦闘機の第三国への輸出解禁を国家安全保障会議において決定しました。また、今年の1月には自衛隊の神社参拝常態化が明らかになりました。現在の私たちの国の問題は以下のようにまとめられます。

1. 敵地攻撃能力について

敵基地攻撃能力の保有は、対中国ミサイル包囲網を構築しようとする米軍の計画に呼応しています。これにより、宮古島、奄美大島、石垣島、沖縄本島（うるま市）にミサイル部隊が配置され、南西諸島の地対艦ミサイル体制を強化しています。敵による武力攻撃開始の判断は難しく、標的もミサイル基地だけに限りません。このミサイル基地は台湾有事にも用いられることになりそうです。先制攻撃がいつでもできる状況で、東アジアの軍事的緊張は増大しています。

2. ミサイル防衛について

日本は食料の約6割、エネルギー資源のほとんどを他国に頼っています。ウクライナーロシア戦争においても、食料やガソリン等の物価は高騰しました。どんな最新鋭の武器を擁したとしても、日本が戦争状態に入れば、食料やエネルギーの確保はできず、国民の生活は困窮を極めます。

3. 防衛力強化について

岸田首相は、バイデン大統領に約束した（2022年5月）とおり、「5年間で総額43兆円」の防衛費増額を目指しています。このため暮らしに必要な財源の不足を招き、国民の生活はますます脅かされます。

4. 日米安保について

米国の対中国戦略は台湾有事などに備えてますます厳しくなっています。日米安保によって日本の軍事的役割の強化も求められています。軍拡は米中衝突の際には、アメリカと一体となって中国を攻撃するためであると考えられ、米中間、日中間の緊張は一層高まります。

5. 防衛生産基盤強化法について

「防衛生産基盤強化法」は、軍需・武器輸出産業への財政支援、貸付促進、事業継続が困難な企業の国有化等が定められ、これにより武器輸出の促進と、軍需産業の実質的「国営化」が進められます。「装備品等機密」という曖昧な指定により、軍需産業従業員に対する「守秘義務」と刑事罰を定め、民主主義と平和主義を破壊します。

6. 軍事技術、装備の共同開発、輸出について

「グローバル戦闘航空プログラムに係る完成品の我が国からパートナー国以外の国に対する移転について」の国家安全保障会議決定及び閣議決定、並びに「防衛装備移転三原則の運用指針」の改正により、政府はイギリス・イタリアと次期戦闘機を共同開発し、それを第三国へ輸出できるようにしました。攻撃能力を持つ戦闘機を他国と開発し、さらにその採算をとるために輸出することは、専守防衛を掲げる日本国憲法の原則を壊しています。

7. 自衛隊による靖国神社や各神社の参拝について

日本国憲法は、かつての戦争を反省し、国家神道的なある種の神権国家体制と決別し政教分離の原則を持っています。にもかかわらず軍勢力を握る人々や国の指導者が靖国神社参拝を当たり前のようにし神権国家体制を推進しようとしています。「偶像を造り、それに依り頼む者は皆、偶像と同じようになる。」（詩編115・8、135・18）と言われるように、このことは、自由にものを言えない社会を造り出します。

以上のような戦争に備えた体制は、聖書が語る平和とは対極にあるところでは。「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かつて剣を上げず、もはや戦うことを学ばない」（ミカ書4章3節）とあるように、神が約束される来るべき世界は、すべての武器が平和の道具に変えられることです。また、聖書は「剣を取る者は皆、剣で滅びる。」（マタイ26章52節）、「暴力に依存するな。搾取を空しく誇るな。力が力を生むことに心を奪われるな。」（詩編62編11節）と、武器をとることや暴力を警戒しています。

私たちはこのような体制に抗議するとともに、関連する決議や法律の撤回を強く求めます。日本国憲法の「平和主義」に基づく外交努力を第一とし、武力によらない対話による平和構築の推進を求め、平和を実現するために共に働きましょう。

以上。

（同日、昨年同様、社会委員長名で内閣総理大臣宛に「日本国の軍拡に反対し、武力によらない平和構築を求める声明」を送りました。詳細は教団HPに掲載）

コロナで落ち込んだ礼拝出席者数がなかなか戻らない、という教会は少なくない。高齢者が戻りにくいのは分かるが、礼拝堂に集まることに必然性や必要性を感じなくなっている人々が若い世代にも広がっている。他教員や求道者から、「ふだんはオンラインで礼拝に参加しています」とか「ネットで聖書を学んでいます」という話を聞く。同じ感覚で、どこかの教会の集会にも出てみる。そうした信仰生活の問題を感じているわけではなく、むしろそれは、ふ

小谷さんが教会に行くようになったきっかけは、介護が必要なクリスチャンの友人にある時、「兵庫松本通教会の礼拝に同行してほしい」と依頼され、付き添いという形で礼拝に出席したことがあった。それ以来、介護の付き添いということで礼拝に出席し続け、次第にキリスト教の信仰に関心を持つようになったという。当時の牧師、廣瀬満

つう」なのだという。富士見町教会では2020年4月から、主日礼拝のオンライン配信を開始した。その時点では、今のような状況も想定はし

沖へ漕ぎ出し、網を打て

だが、これほど早く「ふつう」になるとは思わなかった。おそらく他の教会でもそうだろう。ネット上ではすでにインターネット教会、オンライン礼拝や聖研の類いが溢れていて、内容の充実したものもある。「教会に所属する必要があるのか」「礼拝堂での礼拝に出席しなればいけないのか」といった議論もあり、「所属や出席は必ずしも必要はない」という勧めもある。これまで経験したことのないチャレンジを教会は受けている。

教会での奉仕は、子ども食堂や礼拝後の教会ランチの手伝いを積極的に担っている。明るくユーモアのセンスもあるので、子ども食堂のボランティアの女子高生たちともすぐにお友達になり、彼女たちとラインやインスタグラムなどで交流を楽しんでいるという。その甲斐もあり、新居浜教会の礼拝は若い人が増え、毎年、若い世代の洗礼者が与

えられている。まさに教会と子ども食堂との懸け橋的存在となっている。好きな讃美歌は、讃美歌21・451番「くすしきみ恵み」、讃美歌21・434番「主よ、みもとに近づかん」。好きな聖句はコリントの信徒への手紙一10章13節「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるように、逃れる道をも備えていてくださいます」。洗礼名は「ドルカス」、かもしかのようにフットワーク軽く、奉仕活動に励んでいる。



「かもしか」のように



新居浜教会員